
足が...

saika

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

足が…

【Nコード】

N5643J

【作者名】

S a i k a

【あらすじ】

幼い頃、私が実際に体験した不思議な（ホラーな？）お話です。

本当かどうかは、読んでアナタが判断してみてください。

感染は………しないと思いますから、お気軽に。

幼稚園に通っていた時、私は母親と一緒に寝ていた。

けれど寝る時は私一人。二段ベッドの上には姉が寝ていた。

私は朝起きるのが早い子供だった。

朝、起きては隣に寝ている母にイタズラをよくしていた。

よくしていたのが、蹴ること。

それで叱られたりもした。

けれど子供だったので、その反応もおもしろかった。

なので蹴り続けたある日、蹴っても怒られないことがあった。

それは続けてはないものの、かなりの回数叱られずにすんだ。

だけどもある時、気付いてしまった。

蹴っている足がある。

けれど 上半身が無いことに。

布団の上から手で叩いてみても、上半身の感触は無い。首も胴体も無い。

けれど蹴っている足は、二本、ある。

子供だった私はそのことに何の不思議も抱かず、互いに蹴り合いをして遊んでいた。

蹴っている足は時に攻撃的に私を蹴った。楽しかった。

その感触は普通の足だったのに…。

大人になり、私はベッドで一人、寝ている。

けれどふとした時に、あの足を思い出す。

何である足は私の元へ来たのだろうか？

あの二段ベッドは私が小学生の時に、引っ越すついでに捨てられた。

姉が高校生に上がり、一人部屋を互いに貰ったからだ。

その後、あの足に触れることは二度と無かった。

だけどもと、考える。

もしかしたら……別のベッドに移っただけなのかと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5643j/>

足が...

2010年10月12日07時43分発行